

乳幼児期の大事な成長過程

子どものことばを育てよう

ことばを覚えることは、乳幼児期の発達で最も重要な節目の一つです。特に初期のことばの発達は、個人差が大きいため、1歳前後のお子さんがある保護者にとって気がかりなことも多いと思います。このページでは、子どものことばの発達を促すうえで大切なことを紹介します。

問い合わせ 健康づくり課発達支援係(プラザけやき内 ☎37-1136)

■ことばの発達の仕方

ことばは、本人の持つ力と環境の相互作用によって発達していきます。

ことばの発達の土台となる「元気なからだ」と「安定したところ」の健やかな成長を支えることが大切です。右下図は、言葉の発達の仕方をビルの形で表した「ことばのビル」です。乳幼児期は、この図の1階から3階までの項目を重点的に意識して、お子さんと関わりましょう。

POINT 1

「規則正しい生活を送ろう」

(ことばのビル1階)

ことばの発達は、脳の言語中枢がつかさどっています。一方、人間の体は、昼間に働き、夜は休むようにできています。そのリズムが崩れると脳が元気に働かず、ことばの発達に影響すると考えられています。

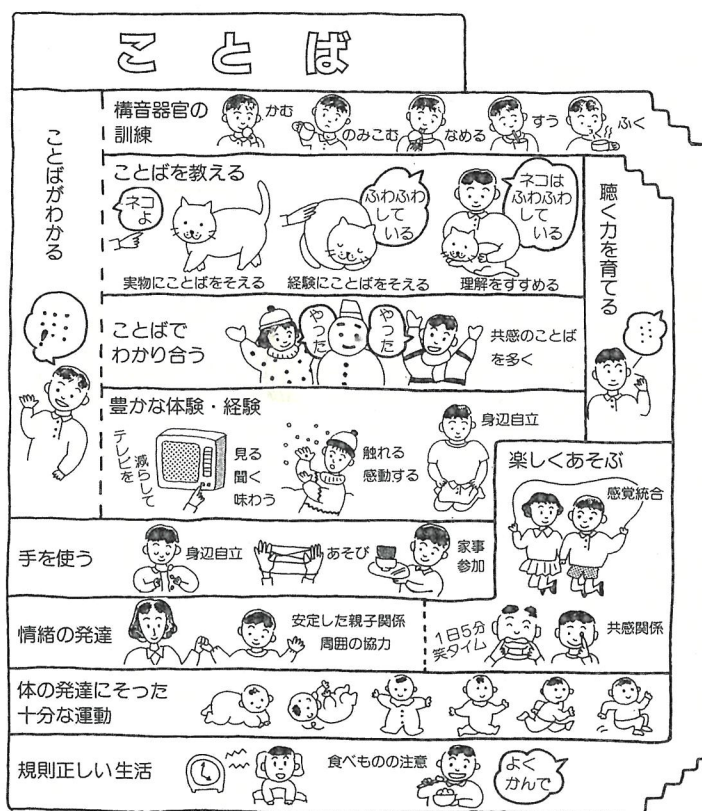
規則正しい生活を送り、なんでもよくかんでたくさん食べることが大切です。

POINT 2

「体の発達にそった十分な運動をしよう」

(ことばのビル2階)

体を使った遊びも脳の発達を促す大事なポイントです。体をいっぱい動かすことが「元気なからだ」を作り、大人との触れ合いで楽しく笑ったり、声を出したりすることがことばの発達につながります。



図：ことばのビル

※出典『ことばをはぐくむ』
(中川信子著／ぶどう社)

POINT 3

「情緒の発達を促すために積極的なコミュニケーションをとりましょう」

(ことばのビル3階)

ことばを覚えるには、音声によるコミュニケーションだけでなく、体でのコミュニケーションも大切です。例えば、むずがっていたら抱っこして揺らしたり、赤ちゃんの世話をする時にひと声を掛けたりするなどです。赤ちゃんが泣いたら、「どうしたの？」と声を掛けてあやすことや「あー」「うー」と声を出しているときは、「なあに？」と答えてあげましょう。赤ちゃんが自分に関心を持ってくれているとわかり、安定したより良い親子の関係を築くことができます。また、コミュニケーションの基礎となる「伝えたい」「話したい」という思いが育ち、ことばの発達を促していきます。

テレビを見ることやスマートフォンを触らせることだけでなく、日常の暮らしの中で親子や家族で楽しい時間を過ごすことが、自然に子どものコミュニケーションの意欲を育てていきます。

